



2020年3月30日
株式会社立花商店
生田

(新) 週刊カカオニュース 7号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

先週末は、関東圏の外出自粛要請の為にご自宅でゆっくりと過ごされた方が多かったかと思えます。

日本にもならず、今、世界のほとんどの国が同じような状況にあり、カカオ生産国でもほとんどの国が、外出原則禁止や他の地域への移動制限になっているところがほとんどの状況かと思えます。

今週号では、アフリカ、南米などのカカオ生産国での影響などの現状を集中にお伝えして参ります。

1、弊社の主要な取引先などの出荷に関する状況(3/29)

コロナウィルスの影響が世界中に広まっており、各国で入国制限、都市封鎖、移動制限など様々な対策が講じられております。

弊社がこれまでに把握しているカカオ豆、ココア製品の輸出状況に関する情報を簡単に取りまとめます。

① ガーナ

ガーナは29日から先週の国境封鎖より更に一步強制力のある【ロックダウン】といわれる都市封鎖状態に入りました。それに伴い、ガーナの港である Tema, Takoradi の輸入輸出の制限が発表されました。

輸出：基本的に制限なしで通常通り

輸入：指定品目の商品カテゴリーは継続、それ以外は一時停止。

首都のアクラでは、食料品の買い付け、銀行への移動など生活に必要な行動以外は外出禁止、企業活動も一部の必要な産業を除いて、自宅勤務となった模様。

COCOA BOD 直轄組織 (=政府系組織)

a) Cocoa Marketing company :

カカオ豆の日本向け輸出は港にある在庫分は現在止まっておらず継続していますが、営業部隊や船積み管理の部署などは30日の月曜日からは基本自宅勤務という縛りの中で、どの程度の稼働率になるかはわかりません。相応に人数が減ると思われます。

b) Quality Control Company(QCC) :

日本向けの農薬検査を含むすべての品質検査を行う部署である QCC (Quality Control Company) の方は、月曜日からは人数を減らして月曜日にも検査活動は継続するとのこと。

民間企業

c) Niche Cocoa 及び CHOCO MAC (旧 BD Associates から社名変更) :

先週は製造活動及び輸出ともに行われておりました。29日段階では都市封鎖の影響が出るかもしれませんが、双方の経営陣は、主要産業且つ食品企業という背景から停止はないのではないかという話をしています。

② その他アフリカ

タンザニア、カメルーン、ウガンダ、シエラレオネ、ギニア共和国からのカカオ豆の輸出状況
上記はカカオ豆の輸出をしておりますが、今のところ、通常の輸出プロセスが進行しております。

③ 南米主要国（ベネズエラ、エクアドル、ペルー）

輸出禁止ではないものの、主要な都市が移動制限、自宅待機になっていることから、港湾職員の不足、通関業者の不足などで新規の輸出手続き、また輸出済みの各種輸出関連書類（BL、原産地証明、植物検疫証明書）等の取得がほぼ停止状態のようです。輸出は行われているのですが、その処理能力は通常と比べ格段に落ちている現状。

④ マレーシア

a) ガンチョンココア社

3月18日から一時停止したが、その後、カカオ、チョコレートは生活必需品そのものではないものの、必需品の一部の原材料を同社が製造しているため、早期の再稼働の申請を関係省庁に提出し、現在は稼働再開した。通常の50%の従業員で現在約70%の製造数量で稼働させているとのこと。

⑤ シンガポール

a) オーラム社

現在、製造及び輸出活動共に稼働している。

⑥ インドネシア

a) ガンチョンココア社 バタム工場

インドネシア工場については、製造、輸出ともに稼働している。

*弊社取引先からの情報をベースにしており、国全体の情報把握としては正確性に欠けますので、ご参考程度にご参照いただければ幸いです。

2、アイボリーコースト物流《アビジャン港はこれまで通りの運営を承諾》(3/27)

アマドゥコネ運輸大臣は、政府当局はアビジャン港を経由した輸出入の輸送は当面許可すると発表した。これは、既に3月23日、コートジボワール大統領がコロナウィルスによりアビジャン市内の外出制限とコートジボワールの他の地域との間の殆どの移動が禁止する発表をしていたが、その混乱を防ぐために発表されたものである。アイボリーコーストは世界最大のカカオ輸出国であるため、アビジャン港が輸出機能が停止されれば世界のカカオ原料供給に大きな問題が生じることになる。

3、ガーナカカオ豆着荷状況 《2月27日現在の集荷は昨年をやや上回るレベルで推移》(3/23)

政府のカカオ監督機関であるココボードによると、10月1日の新シーズン開始後から2月27日までのカカオ集荷数量は680,139トンとなった。昨年同時期までの集荷数量は678,151トンであった為、昨年をやや上回る数量での集荷が進んでいる。

4、日本企業）明治プレスリリース：持続可能なカカオ豆生産の実現に貢献 (3/25)

***2026年度までにサステナブルカカオ豆^{*1}の調達比率を100%**

-プレスリリース抜粋-

株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）は、持続可能なカカオ豆生産の実現に貢献するため、「2026年度までにサステナブルカカオ豆^{*1}の調達比率100%」を目指す目標を設定しましたのでお知らせいたします。ま

た、この調達目標の達成に向け、2020 年度には具体的な調達方法や調達スケジュールの立案に取り組んでまいります。昨今、世界全体のチョコレート消費量は増加傾向にあります。その主原料となるカカオ豆の生産地域や農家を取り巻く環境には、森林破壊、児童労働、栽培技術の周知不足など、様々な課題があります。当社は、これらの課題解決に向けた取り組みを行うことでカカオ豆の生産地域や農家を取り巻く環境の改善に努め、持続可能なカカオ豆生産の実現に貢献していきます。

5、アフリカカカオ生育概況：コートジボワールとガーナのカカオ生産者は雨を歓迎。

ブルームバーグが広く西アフリカ全体のカカオ生育環境に対する調査を実施。

要約

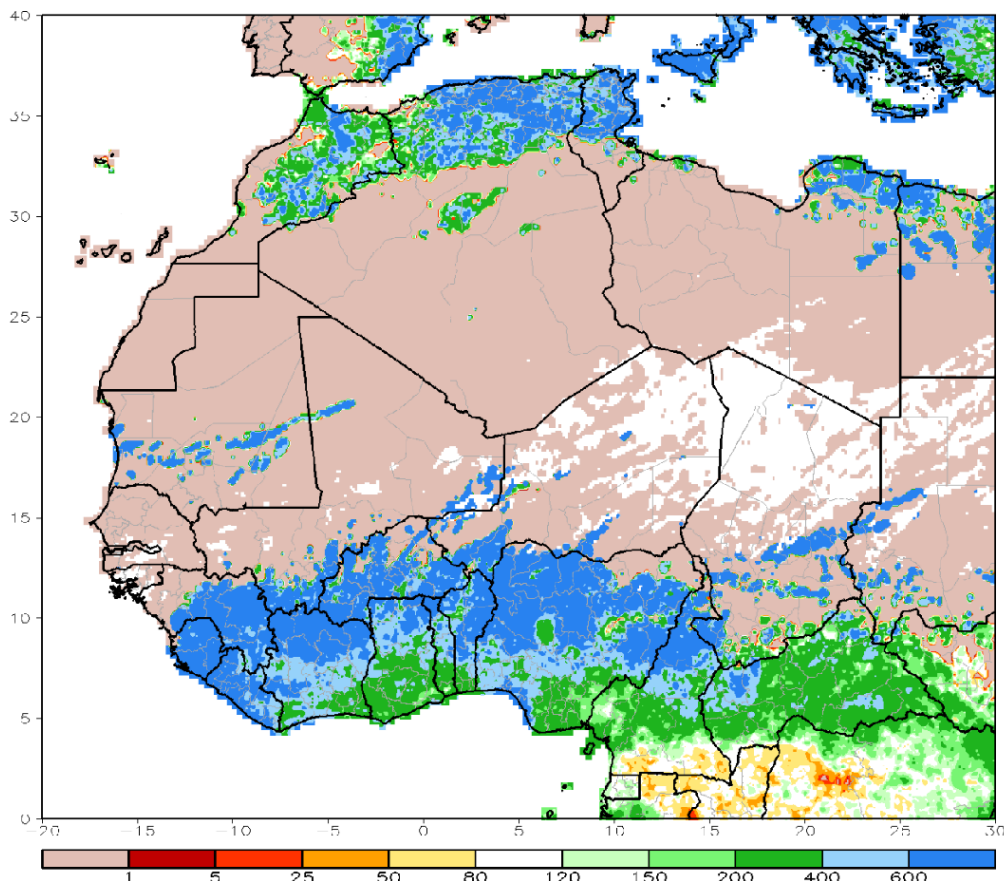
- 予想よりも早い降雨により、世界の2大生産地であるコートジボワールとガーナの生育に良い効果。
- カメルーンの農民は、先週の継続した降雨により来クロープは豊作を期待。
- 今週のナイジェリア南東部の降雨は作物を湿った状態に保っていますが、南西部では今年の初めからかなり雨が不足しており生産者はまだ不安な状態にある。

データ

- 先週の雨に引き続き、衛星画像 3月22日から28日の米国気候予測センターからの報告では、コートジボワールとガーナの沿岸地域の多くに沿って平均的な降雨が予測されますが、カメルーンやナイジェリア等その他のカカオ生産国と地域では平均以上の降雨が期待されています。

ARC2 7-Day Percent of Normal Rainfall (%)

Period: 22Mar2020 - 28Mar2020



先週までの各地域の生産者の声は、

アイボリーコースト 南部

- 過去7日間に2つの大きなわか雨が降り、風が強くなったため、葉が緑色に変わり続けているとプチダナネ地区の生産者は報告した。
- 新しい花が成長し、最終的に小さな蕾になると彼は言った、そして再度降雨は戻ってくればミッドクロップの収穫には良い兆候であると付け加えた。

アイボリーコースト 中西部

- 3月下旬または4月上旬に予想される降雨がすでに始まっているとバノンの生産者は話しました。
- 「ハルマタンはこれで終わり、現在の雨はカカオの木に適しています」と期待している様子。

アイボリーコースト 南西部

- ソウブレ地区の生産者はメインクロップの収穫も終わり、またコロナウイルスの発生が懸念されるため、カカオ産業の活動は鈍化しているが、天候は雨に変わり、カカオの生育には良い状態である。

ガーナ

- アクラ北部のクワルベンにある生産者は、ここ数週間の大雨の後、農家は希望を抱いていると語った。
- 「先週、非常に激しい3回の雨と雷雨が発生しました。この現象により、プランテインの木（食用バナナの木）がいくらか犠牲になり残念だったが、カカオの木には最適な雨だった」と彼女は語った。
- 「私はすべてのカカオの若い苗木を長い干ばつで失いましたが、古い既に成熟した木々はこの降雨でかなり元気になり、新鮮な葉と新しい蕾をつけ始めました」

カメルーン

- ドゥアラ北部のロウムの農家によると、国の主要生産地域の1つであるリトラル地域では、雨が降り続いたため、今シーズンは豊作が期待されているとのこと。
- 「多くの植物はすでに花をつけている。これは農家にとってより高い収穫高の可能性を示す良い兆候だ」
- 雨はまた若い苗木の土壌を湿らせて生き返らせ、干ばつで傷ついた木の復活も可能にした。

ナイジェリア

- 南東部のイコムスの近く、ベンデゲアフィの農民は、月の初めに降った雨の影響でプランテーションは依然として恩恵を受けていると語った。「それ以来、雨は一回しかありませんが、多くの木は今では新鮮な花を持っているか、すでに実を結んでいます」と彼は話した。
- 南西部のアド・エキティの近くの生産者は今年の初めから大きな降雨はなかったと語った。「この地域のほとんどの農場の植生は乾燥しており、カカオの木とその葉は本来あるべき活力はない」と嘆いた。

6、コートジボアール豆着荷状況《昨年を上回るペースでの集荷が継続》

コートジボワールの3/16-22の週間でのカカオ集荷数量は25,560トンであった。昨年の同時期の1週では34,864トンの集荷数量であった。また、シーズンが10月1日に始まってからの総到着数は173万トンとなっており、前年同時期の約162万トンをかなり上回る数量となっています。

*下記はコートジ産カカオの買い付けのトップ5企業と3月22日までの買い付け数量。コートジでは国際的な需要者は国内に買い付けの為の会社を設立しており、生産者から政府の規定価格での買い付けを行う仕組みになっています。

会社名	購入(トン)
アウトспан(オーラムのグループ)	250,410
カーギル	237,404
Saco(バリーカレボグループ)	196,959
Sucden(フランスの商社)	111,688
Tuton(フランスの商社)	102,344
その他の企業	832,745
合計	1,731,550

* 配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp